

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

室房ブロックを伴い持続する発作性上室頻拍の頻拍回路の診断と診断方法の探索的観察研究

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科 (研究責任者) 永嶋 孝一

<研究期間>

承認日 ~ 西暦 2022年12月31日

<研究の目的と意義>

室房ブロックを伴い持続する発作性上室頻拍では、上部共通路を伴った房室結節リエントリー性頻拍と、房室結節-心室間の特殊な副伝導路を介した上室頻拍の2つを鑑別することが、治療するにあたって非常に重要です。ただこれらの頻拍は稀有であり、実際の有病率も不明なばかりか、診断方法もあまり確立されていません。今回、これらの頻拍の有病率の把握と、診断基準の確立をすべく、多施設で患者さんのデータを集め、有病率の把握と診断基準の確立を目指します。

<利用する試料・情報の項目>

室房ブロックを伴い持続する発作性上室頻拍に対してカテーテルアブレーションを受けた患者さんの、心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図データを使用します。

<対象となる患者さん>

1990年1月1日～2019年7月31日に当院循環器内科で発作性上室頻拍に対するカテーテルアブレーション治療をされた方

<研究の方法>

上記患者さんのカテーテルアブレーション中に、心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図データを使用します。またペーシングによって診断したデータも使用し、診断の確立を目指します。ペーシング手技はいずれも診断に必要であり、どの患者さんにも行っている、安全性が確立された方法です。また得られたデータを後から解析しますので、安全性には問題ありません。この検討により、不整脈回路をより迅速に、正確に診断することが可能となり、治療で難渋することを回避することが目的です。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

循環器内科 氏名:永嶋 孝一

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2413 (PHS)8142

【参加施設一覧と各施設における研究責任者の氏名】

群馬大学医学部附属病院循環器内科 准教授 金古善明
日本医科大学日本医科大学千葉北総病院循環器内科 講師 丸山光紀
東京都立広尾病院循環器内科 深水誠二 北村健
昭和大学医学部 循環器内科 河村光晴 宗次裕美
心臓血管研究所 循環器内科 大塚崇之
富山大学医学部 循環器内科 山口由明 絹川弘一郎
小田原循環器病院 循環器内科 熊谷賢太 豊田康豪
岡山大学医学部 循環器内科 渡邊敦之
筑波大学 循環器内科 野上昭彦
横浜労災病院 循環器内科 小和瀬晋弥
東邦大学大橋病院 循環器内科 中村啓二郎
近畿大学医学部 循環器内科 栗田隆志
東京医科大学 循環器内科 里見和浩
東京女子医科大学 循環器内科 庄田守男 樋口諭
土浦共同病院 循環器内科 久佐茂樹
平塚共済病院 循環器内科 樋口晃司
東京医科歯科大学 循環器内科 林達哉
聖マリアンナ医科大学 循環器内科 中島育太郎
神戸大学医学部 循環器内科 高見充
国立国際医療研究センター 循環器内科 谷本耕司郎
帝京大学医学部 循環器内科 渡雄至
福井大学医学部 循環器内科 宮崎晋介
東海大学医学部付属八王子病院 循環器内科 小林義典

以上、各施設のデータ収集および論文の構想、校正に携わる。